

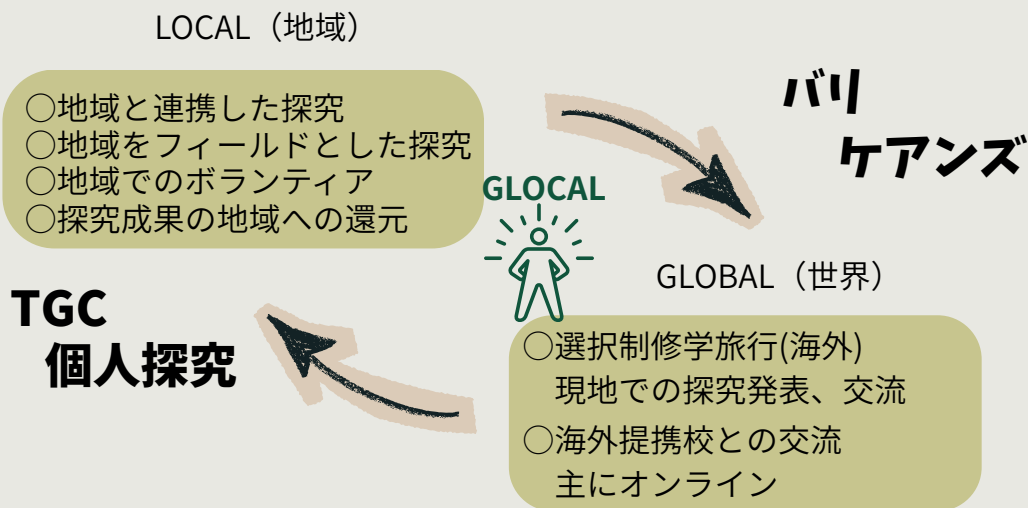


令和8年度探究計画（教育研究部）

グローバル探究科の核となる“探究”はグローバル探究科1期生とともにどんどん進化していきます！今回は令和8年度の取り組みを一挙公開します。

1 グローカル探究科の概要

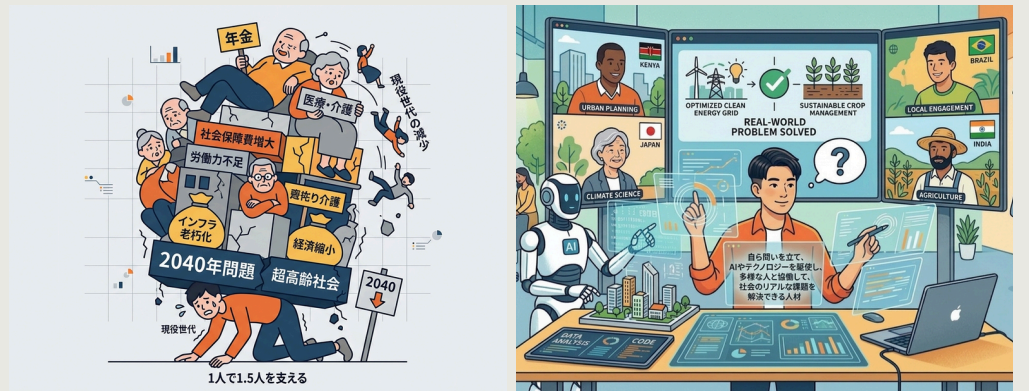
「ローカル×グローバル×探究学習」で
“地域”をフィールドに“自分”の未来を創る学校



3 探究を取り巻く社会状況の変化

来たる“2040年”に向けた人材育成が必要。
課題を解決する訓練をそれぞれの分野で積む。

- N-E.X.T.ハイスクール構想（2026年から先行実施）
- 今後3000億円が投入される（規模感は〇〇と一緒）
- ・2040年問題（労働力の激減、既存システムの限界）
- ・日本は「少ない人数で、膨大な社会課題を解決し、国を維持していく」という超ハードモードに突入
- ・「自ら問いを立て、AIやテクノロジーを駆使し、多様な人と協働して、社会のリアルな課題を解決できる人材（チェンジメーカー）」が必要（今の高校生世代が30代に突入＝中堅となる）



2 令和8年度の教育研究部の方針

教育研究部の3つの柱と6つの取り組みについて。

3つの柱

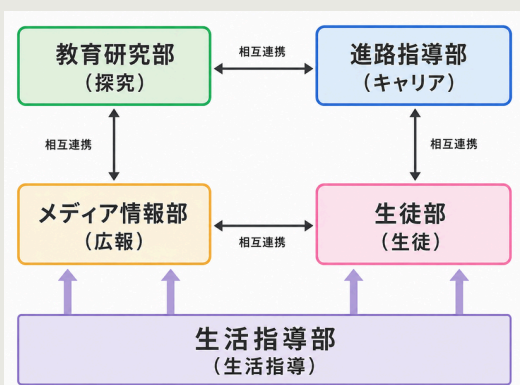
学校全体で取り組む探究を軸とした組織的成長サイクルの加速

2～3年次グローバル探究の具体と持続可能な実施体制の構築

1年未来計画の更なる充実と地域還元強化

6つの取り組み（裏面で紹介）

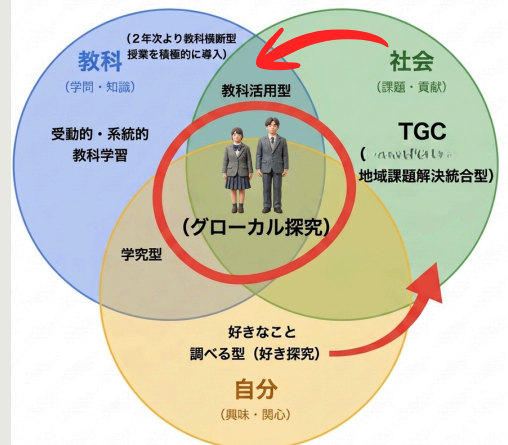
- ① 探究の進路・広報への活用
- ② 全ての活動を探究プロジェクトとして捉え直すリデザイン
- ③ 探究専門コース設置とヤマ場の設定、人的資源の発掘
- ④ 探究マイスタークラスによる充実した探究支援
- ⑤ その他（教科横断型授業、探究メンター登録システム）
- ⑥ 既存の探究プログラムの改善と見直しを持った運営



4 美高の探究が目指す方向性の確認

「ローカル×グローバル×探究学習」で
“地域”をフィールドに“自分”の未来を創る学校。

探究のタキソノミー：3つの要素のバランス



美高の探究の進み方

- ① 好きなことを調べる型 (好き探究)
 - ② 希望選択型 兼地域課題解決統合型 (TGC＝選択制地域連携探究)
 - ③ グローカル探究 (①②に教科的な視点も取り入れていく)
- 自分×社会×教科(学問)が重なる探究を目指す。



学校全体で取り組む探究を軸とした組織的成長サイクルの加速

①探究の進路・広報への活用

【探究活動を軸とした広報展開】

探究活動の成果やプロセスを広報の核として活用する。パンフレットの「探究特集」や説明会を通じ、高校生が生き生きと学ぶ姿を中学生へアピールする。

【年内入試に向けた実践的なサポート】

探究活動での取り組みや志望理由を生徒が言語化できるよう指導し、総合型・学校推薦型選抜などの「年内入試」で即活用できるレベルに引き上げる。

②全ての活動を探究プロジェクトとして捉え直すリデザイン

【学校行事・広報の探究プロジェクト化】

学校広報を生徒主体のプロジェクト (StudioM) へ転換し、成長の機会とする。文化祭等の学校行事にも探究的視点を取り入れ、主体的な学びの場とする。

【あらゆる時間の有効活用 (隙間時間の探究化)】

遠足などの移動時間も単なる移動とせず、探究活動やチームビルディングの時間として最大限活用する。

【探究心を育む空間・環境の創出】

中庭などに生徒が自由に集い、思考や対話ができる「居場所」を創出する。

▼StudioM活動



▼中庭サードプレイス化計画



2～3年グローバル探究の具体と持続可能な実施体制の構築②

④探究マイスター等によるモデルケースの創出

【先導する生徒集団の育成と集中環境の整備】

7月より意欲的な生徒を集め、学校全体の探究を牽引するリーダー集団を育成する。週1回の別室活動で切磋琢磨できる環境を確保し、特別講義やコーディネーターの伴走など多様な外部リソースで手厚くサポートする。

【探究学習と進路・長期的なキャリア形成の接続】

探究の学びを総合型選抜などの進路実現へ結びつけるノウハウを実践から蓄積する。大学合格だけをゴールとせず、社会貢献といった長期的視野を持つ自立した生徒を育成する。

【学校全体への波及と将来的な地域社会への還元】

リーダー生徒が経験や姿勢をクラスに持ち帰り、周囲へ良い刺激を与える波及効果を期待する。さらに、探究の成果を地域課題の解決に結びつけ、将来の地域社会を支える人材を育む。

※事例の一つです



2～3年グローバル探究の具体と持続可能な実施体制の構築①

③探究専門コース設置とヤマ場の設定、人的資源の発掘

【探究専門コース設立】

7月より、2学年の生徒・教員は以下のコースに配属される予定。

各専門コースに2名ずつ教員を伴走役として配置、特設クラスルームでニーズに合った情報を生徒と共有する。また、学期に複数回ニーズに応じた「ホンモノ (外部有識者)」による講義やワークショップを行う。

グローバル・コミュニケーション探究、サイエンス&テクノロジー探究
 メディカル・ライフ探究、ビジネス・マネジメント探究、アート&デザイン探究
 パブリック・リーダーシップ探究 の合計6コース

【生徒が超えるべき探究のヤマ場】

【ブレークスルー3.0：石鎚山 (標高：1,982m)】

自身の探究を探究抄録と発表スライドとして形にできており、探究成果を活用した大学進学等にもいつでも対応できる。目標値：3.0までは全員が達成。

【ブレークスルー4.0：富士山 (標高：3,776m)】

外部コンテスト参画や社会への提言。実社会のプロを納得させる論理性と情熱を持っている。目標値：学年の約2割 (40人以上) が達成。

【ブレークスルー5.0：エベレスト (標高：8,848m)】

専門家との共同研究・学会発表など。社会のリアルな壁に挑み、高校生の枠を超えたインパクトを残す未知の領域。目標値：学年で3人以上が達成。



2～3年グローバル探究の具体と持続可能な実施体制の構築③

⑤その他

【教科横断型授業の実施】

2年7月～10月にかけて2学年で6時間分実施予定。教科横断型授業は、現実の複雑な課題に対し、各教科の「見方・考え方」を統合して挑む場となり、バラバラだった知識が繋がり、多角的に「問い」を深める過程で、未知の状況にも対応できる実践的な探究力が養う。

【探究メンター登録システム:センパス】

名称は「先輩」と「Path (道)」を合わせた造語で、卒業生や社会人、教職員がメンターとして登録する。生徒はオンライン面談等を通じ、専門家から助言を受けることで、自律的で深い探究の実践を目指す。

1年未来計画の更なる改善・充実

⑥既存の探究プログラムの改善と見通しを持った運営

【計画的な授業実施】未来計画としては三回目の実施になるので、プロジェクト単位でのまとめた資料提示など、見通しを持った授業展開を目指す。

【TGCによる地域還元】1年後期TGC (タンキウグローバルコラボレーション) におけるプロジェクトの成果イメージをより具体的に固め、成果イメージが「生徒の成長」と「地域社会への還元」の両方を満たすようにする。

